

---

# 魔法少女リリカルなのは 交じり合う狂気

わいていー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 交じり合う狂気

### 【Nコード】

N4096BA

### 【作者名】

わいていー

### 【あらすじ】

いつもいつもヘタレな男子の主人公レイン。だがヘタレの癖に悲しんでいる女の子を助けてしまう、あげくの果てにヤンデレに・・・。

レインはヤンデレに耐え切れなくなり逃げることにしたが・・・。  
初めての投稿っス！！応援、感想、アドバイス募集するっス！！

## ブローグ（前書き）

初めての投稿っス！！ キャラ崩壊などなど原作が汚されるのが嫌なひとは見ないでほしいっス！！

## プロローグ

S a i d    ? ? ?

ずっと一人だった．．．．．でも．．．．  
一人だったから君に会えた．．．あっちゃったんだよ．．．  
．．．．．素敵な．．．．．キミに．．．．．

もう離さないこの温もり

もう離さないこの手をもうもつもつもつもつもつ．．．．  
。

? 「．．．．．絶対に．．．．．なの。」

．．．キミだけに全部あげる、キミが嫌なものケシテあげる。  
．．．だからワタシを見て．．．．．レイ君

レ「．．．．．なのは．．．．．ごめん．．．」

．．．．．なんで????????????

な? 「．．．．．どうして．．．．．謝るの?」

レ「僕がキミ達を．．．．．壊してしまった。    フェイトも、はやても。」

．．．．．だから、僕はこの世界から．．．消え」「消えても君を追うよ．．．絶対に」「．．

．．．フェイト．．．はやて．．．。」

フ?」・・・・・・行くなら私もついて行く。

離さないよ私にはキミだけなんだから・・・・。」

は?」・・・・・・もちろん、うちもや。

死んでもついてくで・・・・。」

レ」・・・・・・。」「

---

S a i d   レ イ ン

・・・・・・どうして、こうなってしまったんだろう。

ただ手を伸ばしただけなのに、涙を拭ってあげただけなのに。

・・・・・・こんなにも、狂ってしまったんだろう・・・・・・

・・・・・・僕は弱虫だからなにもできない。

・・・・・・ただただ、この恐怖から逃げるだけ。

早く早くはやくはやく・・・・・・この世界からきえたい。

レ」・・・・・・まだ?ソロー・・・・。」

ソ(もう少し、お待ちくださいマスター・・・・)

レ」・・・・・・わかった・・・・・・もう少しだけ時間稼ぎを「何してるの

?」!?・・・・・・するから。」

な?」さつきから・・・・・・何してるの?」

・・・・・・こんな感じで

レ「君たちのことを考えてたよ……」

な・フ・は「ほつ本当！？／／／／／」

レ「うん、本当だよ」

・・・・・うそだけど

いつもそうだ、嘘ってわかってるはずなのに……簡単に信じて受け入れる。

それがとても怖い、何を考えているのかわからない。

・・・それに、僕と会う前は綺麗な目や髪をしていたのに今は漆黑……すべてを飲み込むような色。

それも、3人共だ。

・・・僕のことをずっと考えていたらなっていたらしい。一回自分  
分は呪われているのかとおもったほどだ。

それも、これで終わり……デバイス相棒であるソロと一緒に正しい世界に戻るんだ。

・・・だれも、彼女達によって誰も消されていない世界へ……。

ソ「マスター……」

・・・やっぱり、僕に似合わないほど優秀なデバイスだよ・  
君は……。

チラリ……と、なのは達を確認……

な・フ・は「／／／／／／／／／／／／／／／／」

・・・まだ喜んできた。恐ろしいね。

魔方阵を展開・・・

な・フ・は「「「!?!?」「「「

レ「・・・最後に言うておく・・・し

ヒュン

・・・転送中。

レ「ねえ、ソロー・・・」

ソ「はい、マスター・・・」

レ「もうちょい、空気よんでよ・・・あれぜつたい追跡フラグ立ちやっただじゃん!!」

何あの最後の「し」って、僕だったら気になって眠れないよ!!」

騒ぎ出すレイン

それを、冷静に宥める自称マスターの人生相談役ことデバイスのソローは・・・

ソ「だつて」

レ「冷静じゃないジャン!!」

地の文にツツコンじゃだめっス!!

レ「黙らっしやい!!」

・・・・・・・・・・・・・・・・。

レ「地の文が本当に黙るな!!」

・・・・・・・・ZZZ・・・・フガッ・・・・ZZZ

レ「寝てるんかい!!」

ソ（誰と話しているんですか。頭大丈夫？ 痛い所ない？ おねんねできるう？）

そう言つて優しく点滅する・・・・グスッ・・・・いいお母ちゃんっス・・・

レ「これからどうする？」

あつ、そうやって無視するんですか？ いやな奴つつス

ソ（一度このまま流されていきましよう。）

おゝいそろそろお許しをいただきたいっス

レ「了解・・・で、どこに着くんだ？」



ほっ放置プレイっスか、耐えてみせるっス

ソ(・・・・・・・・・・)

・・・・・・・・・・。

レ「・・・・・・・・・・」

・・・・・・・・・・。

レ「・・・・・・・・わからんのか？」

・・・・・・・・・・プルプル・・

ソ(・・・・・・・・・・す)

・・・・・・・・・・す。

レ「・・・・・・・・す？酔？」

ソ(すっすみましえんでしたあああああ！！！)

アイム ソーリー ヒゲソーリー！！

レ「しかたないな。許してやるよソロー」

あれ、すべる技をつかったはずなんすけど

そのとき、まだレインはきずいていなかった。

・・・・背中小さく輝く機械があったことに・・・・

S a i d ヤンデレ達（なのは、フェイト、はやて）

な「・・・行っちゃったね」

フ「・・・そうだね」

は「・・・けど、レイン君はかわええなあ」

はやての手に握られている何かの場所を示している機械・・・その機械は起動している。

フ「まさか、レインが気がついてなかっただなんて・・・フッフ・・・」

フェイトは笑顔になる・・・誰をも魅了する微笑である。

な「うん・・・／／／／／／／／」

なのはは、なのはで・・・妄想ゾーン・・・

な「つけておいてよかったな・・・発信機・・・」

そつ、あれは発信機

は「・・・でも、少しだけそつとしておいてあげへんとな」

な・フ「どうして!?!?」「」

もう早く追いかけたらしい（汗）

は「……………レイン君は、……………残念やけどウチらに恐怖しとるやんか……………」

な・フ「……………なるほど」

みんな何かを理解したようだ

な・フ・は「……………待っててレイン君……………」

## ブログ（後書き）

駄文っすね。

今回のブログで、アドバイスを募集するっス！！

亀更新かもしれませんが応援よろしくっス！！

キャラ説明っス!! (前書き)

小説書くのって大変っスね!!

わかりにくいと困るので

説明っス・・・どうぞっス!!

## キャラ説明っス！！

主人公

レイン・グラゴニス

13歳    性別    男の娘？    身長？？（いつも幻で変化しているから忘れたらしい）

本作のヘタレ主人公。

基本的には、逃げ腰だがお酒などでテンションが上がるとぶるあああああと、別人である。

最近は女性恐怖症になりつつある。だが、困っていたり悲しんでいたら手を差し伸べちゃうフラグやろう。

身長をしょっちゅう変えてヤンデレにばれないようにしている。

魔法は主に幻術を使う。ものすごくリアルなのでヤンデレ（最強）相手にも十分有    効。攻撃魔法は一切なく、

幻術一筋！！

髪は黒だが目は青である。

魔力光

灰色

魔力ランク

A A A

近接ランク

測定不能（弱すぎて）

遠距離ランク

C +（あればいいくらい）

特殊ランク

S S S（幻術だけで）

レアスキル 「狂愛の心」

を与え自分

自分を死ぬほど愛す人に強大な力  
ヤンデレ  
が敵と判断

したものを変わりに処理する。いわば多少洗脳状態。

ソロー（インテリジェンスデバイス） 人格 女性

主人公レインのデバイス。

基本は冷静でありレインのサポートを行う優秀なデバイスである。

時々冗談をいってレインのメンタル面もサポートを行っている。レインのことを一番に考えており、レインがヤンデレを自然に作ることを受け入れどうやってレインを守るか考えている。形状はネックレスでありセットアップ時は鎖。

ヤンデレ（なのは、フェイト、はやて）

すでに、その身は「狂愛の心」によって不老となっている。

魔力量もすでにSSSオーバーである。髪の毛は黒く染まり目は赤く染まっている。

デバイスさえも黒くそまっていて話す機能が消滅している。レインのことが大好きでたまらない。レインが人間に恐怖してしまつたため、一人残らず処理されている。なのは達は特にどうとも思っていない。

キャラ説明っス!! (後書き)

どうでしょうかいできたっすか？

理解できない所があったら聞いてください!!

では、さいなら。



1話 えっ意味なくね！？（前書き）

最近、ちょっとした感想がうれしいッス！！  
心の励みになるんすよ・・・  
これからも、応援よろしくッス！！

本編をどうぞッス！！

# 1話 えっ意味なくね!?

運命って・・・最近残酷だともう

・・・ヒュン

とある場所に魔方阵が展開された・・・

レ「さてと・・・とりあえずは追跡されずにすんだかな?」

ヘタレ主人公、レイン君と。

ソ（・・・そうですね。とりあえずは、追われなかったみたいですね。）

冷静沈着、自称人生相談役の優秀デバイス・・・ソロー様・・・登場場!!

レ「で・・・ソローのことだから、もうこの場所が何処か・・・わかってるんでしょう?」

ソ（・・・はい・・・ですが）

レ「ああ、いいよ。たまには自分で調べてみるよ。」

ソ（・・・・・・・・・・はい、承知いたしました。）

後に・・・・・・・・レインはソローの話を聞いておけばよかったと思うなど・  
・知るよしもなかったらしいっス

---

S a i d    ???

私の名前は、高町なのは。

現在はPT事件が終わって、ゆっくりしている所です。  
今回の事件・・・・・・・・色々なことがあってヘトヘトでした。  
フェイトちゃんとも連絡をとりあったりしています。

まあ、そんな感じでいつもどおりに過ごして・・・・・・・・ユーノ君とお  
さんp

な・ユ「「!?!?」」

な「・・・・・・・・気のせい?・・・・・・・・じゃ、ないよね。」

ユ「うん・・・・・・・・確かに魔力反応だ・・・・・・・・管理局は今はいないはずだ  
し・・・・・・・・。」

突如現れた魔力反応に、どうようする二人・・・・

な「行かなきゃ・・・・・・・・だね。」

ユ「……………うん。」

反応があつた方向え走り出す二人……

この時……なのは達は知らなかった……

これが狂つた運命の始まりだとは……………

---

S a i d   レイン

人の反応があつたので、とりあえず向かうレイン君

とりあえず町に入るレイン君

そしてとりあえず、町を見た。

そして、レイン君の一言……………

レ「ここ……………海鳴市ですよおおおおおおおお  
おおお！……………ソローさん」

ゴゴゴゴゴゴゴ……………

超怖いッスー！

ソ（はっはいいいいいいー！）

あまりの威圧感に空間が歪みはじめたあああああ！！（気がするだけ・・・）

レ「・・・・・・・・ソロー・・・説明ヲ・・・。」

ソ（はい！！ここは確かに海鳴市ですが、パラレルワールドだと推測されます！！」

レ「・・・・・・・・？パラレルワールド？？」

・・・・・・・・ちょっと、どうしてわかるのかな？（怒）

ソ（その証拠に、ヤンデレ達の強大な魔力が感知できません！！）

そう、ヤンデレの反応は・・・・・・・・である・・・。

レ「・・・・・・・・フウ・・・・・・・・そっか・・・・・・・・なら安心して生きていけるね・・・・・・・・。」

それに気がつかないレインもレインっすね。（汗）

？「あのゝすいません・・・・・・・・。」

・・・誰かが話しかけてきたっすね。

ソ（マスター・・・・・・・・誰かなしかけて！？・・・・・・・・マスター申し訳ございません）

・・・ん、どうしたんだろ？

レ「はっはいなんです・・・ぎゃあああああああ！！」

？「どどどうしたんですか！？」

レ「なななななのはじゃああああああん！？ソロおお  
おおおおおおお！！！」

な「はっはい？確かに私は高町なのはですけど・・・。」

ソ（まっマスターおちつ、おちつううううう！！！）

お前もっすよ（笑）

ソ（マスターここは、落ち着いてください！！ここはパラレルワールドです。」

必死に伝える冷静（もう自称ツス）なデバイス・・・

レ「パラレルワールド？違う可能性の世界？ヤンデレじゃない世界？」

ソ「はい！！そうです！！！」

そつ、パラレルだからヤンデレであるはずがないツス！！

な「あっあの～」

レ・ソ「「はっはい！！！」」

---

S a i d   なのは

---

なんだか怪しい人たちの・・・

さつきから、なんかゴニョゴニョしてるけど・・・

な「少し、お話聞かせてもらえますか？」

？「・・・・・・・・・・。」

む、失礼な人なの・・・

？（・・・・・・・・すみません。マスターは女性恐怖症なので・・・・・・・・私が代わりに代弁させていただきます）

・・・？。これはデバイスだね・・・。

な「初めまして。高町なのは、てっ言います。」

ユ「僕は、ユーノ・スクライアです。」

ユーノ君・・・そういえば居たんだったね・・・

でも、自己紹介は大切なの

？（はい・・・私はソローと申します。・・・マスターの名はレイン・グラゴニスと申します。）

・・・む。

私はレインさんに近づく・・・

レ「ひ!?!」

な「は・じ・め・ま・し・て。高町なのはです!?!」

自分で紹介しないなんて・・・幾ら女性恐怖症でも・・・駄目なの!!

レ「・・・まして・・・。」

な「・・・ニコッ」

レ「はじめまして!?!」

よし・・・なの。

ユ「あはっあはははは・・・。」

・・・で。

な「これから、お話かせてください・・・ね?」

レ・そ「はっはいいいい・・・」



これからちやあああんと聞かせてもらうなの・・・

そんな、なのはにビクビクしながらついて行く人が一人と一つ見られたらしい・・・

1話 えっ意味なくね!?(後書き)

こんかいはどうっすか?

・・・文が短いッス

ユーノをマジ忘れてたッス・・・

これからも、応援や感想を募集ッス

がんばっていくっすよ

## 2話 約束と迫りくる恐怖（前書き）

最近つらいこといっぱいすー！

でも頑張るっすー！

本編始まるっすー！

## 2話 約束と迫りくる恐怖

Siad　なのは

あの後、ユーノ君とお別れして……

な「あの……ちゃんと話きいてます？」

レ・ソ「はっはい！」「」

現在　拷問中う

な「拷問じゃないの！！」

はい！！……すみませんっス……

レ・ソ「……？」「」

な「さっきからはいいはいいって……はいしか言っていないの！……」

レ「すすすみません……でもああするしかなかったんです。」

彼は……

な「……どうして？」

レ「……。。。」

どうして・・・そんなに悲しい顔をするの？

な「何か理由があるなら相談してください。手伝えることがありません」・・・どうして。」

彼のデバイスであるソーさんが遮る・・・

ソ（・・・どうしてあなたは、とまどいもなくマスターの心を傷つけるられるんですか？）

な「傷つけてなんか・・・。」

ソ（マスターのことを知りもしないで・・・出しゃばらないでください！！）

・・・そんなことわかってるよ・・・でも・・・。

な「話してくれなきゃなんにもわからないよ！！」

ソ（・・・）

な「何にも知らないまま・・・終わらせたくないよ・・・。」

彼女は黙ってる・・・

ソ（・・・フツ・・・）

な「・・・？」

ソ（．．．やつ等がもし．．．貴女の様なひとだったら．．．マスターは．．．。）

．．．．．??

な「．．．やつ等？やつ等っていったい．．．」

ソ（私からはお話できません．．．）

．．．．．ここで引いちゃだめなの．．．．．。

な「でも、それでも！！わた（ですが！！）．．．？」

ソ「貴女がマスターの信じるに値する人なら．．．マスター．．．。

」

レ「．．．．．信じないよ．．．。」

．．．．．だったら．．．．．

な「．．．私がもし．．．もしだよ？貴方の信じるに値する人間になったら．．．。」

レ「．．．．．いいよ．．．．．ありえないからね．．．」

．．．．．やった！！！！！！

な「約束．．．．．だよ？」

レ「うん．．．．．」

---

S a i d   レイン

---

．．．．．。

ソ（マスター．．．．．）

こりゃ、ヘタレ卒業っすかね．．

な「グラゴニスさん．．．レイン君ってよんでいいですか？／／／／／／／」

レ「．．．？勝手にしてい（マスター．．．）．．．何？」

ソローが話を遮る．．．．

ソ（マスター．．．また同じ過ち（．．．）を繰り返すつもりですか？．．．」

レ「やつ．．．やつぱり駄「駄目．．．ですか？／／／／／」．．．いいよ。」

ソ（マスター．．．．．ハア．．．．．）

もじもじしながら言ってきた．．．怖いよう．．．

な「レイン君は、学校は通うの？」

レ「学校？どうして？」

いらないんじゃない？

な「だってレイン君同い年みたいだし、友達作ったほうがいいし・  
・。。」

・。。ムカツ

レ「余計なお世話！！。。それに今更、やつ等に処理された人た  
ちにあつたって。。。。」

な「。。。。？」

ソ（マスター。。。。）

ううむ。。。。。。。。。。よし！！

レ「わかった行ってみるよ。。。」

な「うんうん！！」

レ「。。。。明日から行くから。」

な「わかった！！絶対だよ！！」

レ「うん。。。。」

・。。。。なんで、よろこんでるんだろう。。。。



な「じゃあ、私家に帰るね・・・そういえば、レイン君お家は!？」

あ、そうだった・・・

レ「ソ、問題ございません」・・・らしい・・・。」

本当に優秀なのかアホなのか・・・

な「あ、アハハ・・・。」

ちよつとの時間だけ平穏な空気を味わえたレイン君。

・・・しかし、もうその背後には狂いしもの達が近ずいてきている・・・。

---

S a i d    ? ? ?

?「あの、なのは・・・処理しちゃっていいかな？」

?「駄目や・・・もう少しだけ我慢するんや・・・。」

?「自分なのに・・・恨めしい・・・。」

?「あんなん、いつでも処理できるやろ?。」

? 「そうだけど．．．．．」

? 「今は、我慢時や．．．．．」

? 「．．．．．早く．．．．．マトモになってね．．．．．」

? ．．．．．? 「完璧に．．．コワシテ．．．私のものに／／／／／  
／／「」

---

S a i d   レイン

レ「! ?」

ソ（．．．．．? マスター?）

気のせい．．．．．だよね．．．

レ「何でもない．．．心配しないで」

ソ（．．．．．そうですか）

それにしても．．．．

レ「学校か．．．．．」

ソ「本当に大丈夫ですか! ?」

制服とか買っのかなあ  
.....  
フフッ  
.....

## 2話 約束と迫りくる恐怖（後書き）

レイン君学校・・・まんざらでもないんすね・・・

といことで、どうでしたか？

最近疲れが溜まっていたいへんっす。

次話がんばります！！

### 3話 転入と交じり合った雷光と狂った星（前書き）

今日はちょっとだけ長いっす!!

本編をどうぞっす

### 3話 転入と交じり合った雷光と狂った星

S a i d    なのは

昨日・・・レイン君とした約束・・・。

な「絶対！！信じられるって思わせてみせるの！！」

強く心に決めるなのは・・・しかし、その選択が招く運命を・・・  
しるよしもなかった・・・。

？「おい、なのはー！！」

？「あ、ちょっとアリサちゃん急に走らないでよ・・・」

あれは・・・。

ア「あ、ごめんね。・・・すずか。」

す「うん。なのはちゃんおはよう」

ア「おはよつ。・・・それで何かあったの？」

ビクッ

な「な、なんでわかったの？」

なんでだろ・・・

ア「顔に出てるのよ。か・お・に!!」

アリサちゃんが顔にグリグリと手を押し付けてくる

な「アリサちゃんやめてなの。」

痛い、痛いなの・・・

す「それで・・・本当にどうしたの？何か思いつめた感じだったけど・・・。」

!?!?・・・そうなの

な「アリサちゃん!!!すずかちゃん!!!」

ア・す「な、何よ（かな）」

な「手伝ってほしい事があるんだけど・・・」

レイン君のことを説明中う（魔法のことを除いて）・・・

な「それで、レイン君に信じてもらえるように手伝ってほしいんだけど・・・。」

ア「・・・・・・・・・・なのは・・・。」

・・・・・・・・・・?

な「・・・・・・・・ん?」

ア「なのは・・・そいつのこと好きなの？」

・・・・・・！！？

な「ち、違うよ！？どうしてそんなこと／＼／＼／＼／＼／」

レ、レイン君とはお友達なの／＼／＼／

ア「ふ〜ん・・・まあ良いわよ別に。」

す「私もだよ。」

な「うん！！ありがとう！！」

・・・よかったの

ア「ほら・・・さつさと行くわよ！！」

す「あ、また走っていくんだから・・・」

な「ま、待ってよ」

今日はレイン君が学校に来る日・・・

な「がんばるなの！！」

ア・す「「なのは（ちゃん）？」」

あっ・・・



な「／／／／／／／／／／」

---

S a i d ？ ？ ？

？「・・・・・・・・そろそろ・・・・・・・・かな？」

？「・・・・・・・・どうかしたの？な」今の私の名前は・・・・・・・・グリード・  
・・・・・・・・なの」・・・・・・・・グリード・・・・・・・・。」

グ「ちよつと出かけてくるから・・・・・・・・。」

？「どこに行くんや？・・・・・・・・。」

グ「フェイト（・・・・・・・・）ちゃんの所に・・・・・・・・だよ？」

？「・・・・・・・・処理するの？」

グ「違うよ・・・・・・・・ちよつとだけ様子を見に行くだけだから・・・・・・・・。」

？「処理しちや駄目やで？・・・・・・・・フェイトちゃんは・・・・・・・・。」

グ「わかつてるよ・・・・・・・・まだ（・・・・・・・・）使えることくらい・・・・・・・・。」

？「・・・・・・・・すぐに帰ってくるんやで？」

グ「心配性だね・・・・・・・・この世界に・・・・・・・・私を殺せる人なんかいる

訳ないよ・・・」

？「・・・そう・・・やな・・・」

グ「じゃ・・・行ってくるね・・・」

物語が動く今・・・一つの歪みは動きはじめる・・・

---

S a i d   レイ

レ「・・・なんか久々な気が・・・」

それを言っちゃダメッス！！

現在ソローを置いてきている

この学校は転入試験があるらしい・・・

席に着く僕・・・

「はい、これから試験を開始します。」

レ「は、はい・・・」

転入試験開始ッス

レ「・・・まあ、幾年も生きている僕には簡単だね・・・」

カキカキカキカキ・・・

一時間後・・・

「はい、そこまでにしてください。」

ん、やっと終わりか・・・

「はい、プリントを少しみせてくれる？」

レ「はい・・・」

「・・・」

まだかな、合格は決まったもどろけただけど・・・

「・・・（合ってるちゃ合ってるけど・・・）」

早く、早く・・・

「・・・（全部一個ずつ、ずれてるのよね・・・）」

・・・ま、まさか不合格じゃ・・・さすがに小学生の問題だよ・  
・僕、とりあえず大人だよ・・・

「ハア・・・（でも理解はしているから・・・大丈夫かな？）」

・・・ため息だ・・・は、はは・・・とりあえずは大人のつもりだっただけだな・・・

「・・・・・・・・じゃあ、合否を言っけど・・・・で、アレ？」

レ「・・・・・・・・グスッ・・・・・・・・」

ボク、カッコワルイ・・・

「ど、どうして泣いてるの！？（まさか・・・不合格っておもったんじゃない）」

レ「グスッ・・・僕は不合格・・・何ですよね？」

もういいよ・・・僕なんて・・・

「（やっぱり！！）落ち着いて！！君は合格よ！！」

・・・・・・・・えっ・・・

レ「合格・・・ですか？・・・」

ホントに？・・・

「え、ええ。」

僕は、僕は・・・

レ「大人でいられたよ」

「・・・はい？」

よかった本当によかった・・・

感動中うッス!!

「じゃあ、合格おめでとう。君にはこの学校に正式に転入することを許可します。」

レ「はい・・・」

ちょっと嬉しいかも・・・

「これから君のクラスの場所を教えるから、ちゃんとついてきて?」

レ「は、はい（なのはとおんなじクラスかな?嫌だな）」

現在移動中うッス!!

「レイン君ここよ・・・」

ここは・・・

レ「はい（なのはのクラスか）」

ホント嫌だな・・・

「じゃあ、少し待ってて・・・」

S a i d    なのは

レイン君もう来てるのかな

「はい、みんなおはようございます。」

あつ先生なの

「「「おはようございます」「」「」

「今日みんなにグットニュースですよ!!・・・なんと、このクラスに新しいお友達が増えることになりました。」

・・・!!?

「「「イエーーーーーイ（きゃあああああああ）」「」「」

」

「じゃ、入ってください。」

・・・ガラッ

・・・やっぱ、レイン君だ!!

レ「初めまして、レイン・グラゴニスです。よろしく願いしませ  
んのよろしくしないでください。」

・・・これから、大変そうなの・・・

---

S a i d   ? ? ?

---

森が広がる、とある管理外世界・・・

その世界に舞い降りる金色の髪の少女・・・

？「こちらフェイトです・・・リンディ提督？」

フェイト・テストロッサ・・・彼女は無線を繋げる・・・

リ「フェイトさん・・・ごめんなさね。突然頼んじやつて」

フェイトは地球に向かう途中にリンディ提督に仕事を頼まれたのである・・・

フ「い、いえ・・・全然大丈夫です・・・」

リ「そうかしら？」

そう言っているとリンディあ微笑む

フ「それで・・・こちら辺に魔力反応が？」

リ「そうよ・・・突如そこに巨大な魔力が現れたの・・・」

・・・何か・・・嫌な予感が・・・

「どうかしたの？」

フ「な、なんでもありません」

・  
・  
・  
・  
気のせいだね  
・  
・  
・

現在調査中

フ「なんにもない・・・かな？」

・  
・  
・  
・  
一旦戻ろっかn!?

[illegible]

「な、なにこの魔力……」

・ ・ ・ ・ ・  
ありえないよ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・  
こんなの ・ ・ ・

ん？無線が……

「ト・ん・は・にげ」

「フーリンディ提督!？」

無線が切れちゃった……

フ  
「  
・  
・  
・  
・  
!  
?  
」

その一瞬全ての音が魔力による振動が……消えた……



．．．．そして．．．声が聞こえる．．．

？「．イ．ん．．な．．」

フ「えっ．．．．」

．．．．今．．なんて．．．

？「こっちこっち．．後ろだよ？フェイトちゃん．．．」

ゆっくり後ろを振り返る．．．

フ「．．．！？」

．．．．えっ．．．なんで？．．．

同じ顔、黒いけど同じ髪、黒いけど同じ服．．．なのに．．．

フ「ど、どうして．．．なの「はじめまして」．．．え？」

グ「私の名前はグリード・グラゴニス．．．君を待ってたよ？」

．．．．貴女はなのはじゃないの？

じゃあ、微笑む君は．．．．ダレ？

### 3話 転入と交じり合った雷光と狂った星（後書き）

次はバトルを少し投入するっス！！

下手だけど次回もがんばるっス！！

#### 4話 狂いしチカラと狂いし処理（前書き）

バトル・・・難しいッス!!

デバイスの英語は適当なのであしからずッス

では、本編開始ッス!!

---

## 4話 狂いしチカラと狂いし処理

S a i d フェイト

グ「フェイトちゃん!!・・・反応ないなの・・・」

今・・・私はなのは・・・違う・・・グリード・グラゴニスさんと相対している・・・

フ「・・・(でも・・・ここまで一緒だなんてあり得ない・・・)」

グリードは、なのはと瓜二つであり・・・違うところって言えば・・・

グ「きくいてる・・・」

フ「・・・(髪は黒い・・・バリアジャケットも白じゃなくて黒・・・)」

グ「・・・そろそろ、いいかな。」

フェイト・・・無視はいけないっス!!

フ「・・・(それに、目も赤い・・・もしかして・・・クローンじゃ・・・)」

酷いっス!!フェイトちゃん!!

フ「あ、あの・・・お聞きしたいことがあるんですが・・・」

本当にそうなら・・・

グ「ん？違うよ？」

・・・・・・・・・・・・・・・・え？

グ「・・・・・・・・私は・・・クローンじゃないよ・・・フェイトちゃん失礼だよ！！」

そう言って微笑むグリッド・・・

フ「・・・・・・・・！？（どうして！？まだ聞いてもないのに・・・）」

この人は・・・・・・・・未知数過ぎる！！

フ「あの・・・どうしてこんな所に？（確か・・・私を待ってたよ・・・って言っただけ・・・）」

グ「ああ・・・それはね・・・」

話をしながらも考え込むフェイト・・・

フ「・・・・・・・・（それに・・・さっきの魔力・・・私が狙いなら、残念だけど・・・勝てない）」

グ「ここで3つ、やることがあつてね・・・」

フ「・・・・・・・・（隙について逃げるしか・・・）」

フェイトは内心悔しがっていた・・・努力して強くなったのに・・・  
レベルの次元が違ったからだ

グ「一つ目は・・・」

フ「・・・（今だ!!）」

フェイトはジャンプし・・・

タツ・・・ビュン!!

今の自分に出せる最高のスピードで逃走する・・・

しかし・・・

シュン!!

フ「!?!?・・・（かなり速く逃げたはずなのに!!）」

グ「全く・・・勝手にどこかに行っちゃ駄目なの!!」

・・・いったい

フ「どうやって・・・」

グリードのスピードをフェイトから見たら・・・瞬間移動と何ら変わらない速さだったからだ・・・

グ「ん？・・・ただちよつと軽く飛んだ（・・・・）ただだよ？」

フ「と、飛んだ！？転送じゃなくて!？」

それが本当なら・・・

グ「うん、飛んただけ・・・」

フ「・・・・（・・・駄目だ逃げられない）」

フェイトにはそのスピードに逃げ切れる実力はない・・・

グ「それでね一つ目は・・・・」

グリードは手に黒い魔方陣を展開する

フ「・・・・!？けつ結界!？」

フェイト達がいた空間に結界が張られる・・・

グ「君を閉じ込めることだよ・・・・二つ目は・・・・」

フ「・・・・!？」

ガキャン!!

フェイトはバルディッシュでグリードが打ち付けてきた何か（・・・）を受け止める・・・

グ「・・・・君のチカラ（・・・）を・・・・見せてもらっ

とだよ!!」

ガキン!!

グリードは一度身を引き・・・もう一度打ち付ける

フ「クッ・・・（なんて重い攻撃!!あんな細い腕の何処にこんな力が・・・）」

そんな重い攻撃をしているにも関わらずニコニコしている・・・

グ「・・・その程度？」

さらに力が加わる・・・

フ「うう・・・（押し負ける!!）・・・ハア!!」

フェイトは一旦離れて・・・すぐに槍型のスフィアを構成・・・そして・・・

フ「ファイア!!」

ヒュン

打ち出す・・・だが・・・

グ「・・・」

避けもせずただこちらを見ている



ドガガガアアアン

フ「えっ……………」

周囲に爆発によって起きた煙が充満している

なら……………今のうちにと想ったフェイトは……………

フ「ファイア！！ファイア！！ファイア！！」

打ち続ける……………

フ「バルディッシュ！！ザンバーフォーム！！」

バ（Yes , sar）

バルディッシュが剣型に変形する……………

フ「雷神！！」

魔方陣を展開し剣を振り上げる

バ（Smasyzanbar）

そして……………その剣を振り下ろす……………

フ「はああああ！！」

ザン！！ズガガガガガ！！ドゴオオオン

斬撃によりさらに爆発が起こる

フ「ハアハア・・・魔力反応はなかった・・・プロテクションも使っていない・・・全部直撃・・・」

幾らなんでもこれだけ当たれば無傷じゃすまないはず・・・

しかし・・・

フ「!?バ、バインド!？」

煙が晴れる・・・そこには無傷のグリードがたたずんでいる・・・

グ「・・・やっぱりこの程度のチカラだったなの・・・」

残念そうに呟く・・・

グ「フェイトちゃん・・・3つ目は・・・圧倒的な力量の差を見せて付けることだよ!！」

ビュン!!

グリードは大きくフェイトから離れる

グ「・・・いくよ・・・」

グリード手から4つの大きなスフィアを魔方阵なし（・・・・・・）で出現させる・・・

フ「え!？」

フェイトは突如バインドから開放される・・・

出現したスフィアから魔方阵が出現する

グ「ジェノサイド・・・ブレイザー・・・ファイア!!」

シュイン・・・ドウウウウン!!

その魔方阵から、なのはのディバイン並みの砲撃が放たれる

フ「砲撃・・・この距離なら避けて・・・」

フェイトは上に回避したが・・・

グ「・・・甘いよ・・・」

突如砲撃が屈折する

フ「そんな!!・・・砲撃が曲がるなんて」

そして、フェイトは漆黒の光に貫かれた・・・

---

Said グリッド

グ「・・・これで、終わりだね・・・」

．．．．．さてと、フェイトちゃんも落ちたことだし．．．も  
う．．．ガマンデキナイ．．

グ「レインクンガ．．．ホシイホシイホシイホシイホシイ  
イイイイイ！！」

デモダメ、マダ．．レインクンハ．．．

ハヤク．．コノ強欲<sup>グリード</sup>をオサエナキヤ．．．

デモドウヤツテ．．

グ「．．．ソウダ．．コノホシヲ処理<sup>グ</sup>シチャウナノ．．」

トリアエズ．．フェイトちゃんヲマモツテ．．

グ「処理<sup>グ</sup>．．カイシ．．．」

サア．．強欲<sup>グリード</sup>ニミヲマカセルナノ．．．

---

S a i d    フェイト

．．．．．クンクン．．．？

何か焦げ臭い．．

私は目を覚ます．．

そして目に映るものは・・・

フ「え？・・・何・・・これ・・・」

黒い炎で燃える森が視界に入る・・・

フ「どうなってるの？グリードは・・・」

周りを見るが炎しか見えない・・・

フ「とりあえず、飛んで周りの確認を・・・」

タツヒユウ

フ「・・・酷い・・・」

見はたす限り炎だらけ・・・

この森だけではなく、この星が燃えていた・・・

フ「・・・一旦リンディさんのもとに行かなきゃ・・・」

フェイトは転送の準備を始める・・・しかし、後ろから・・・

グ「・・・ハハハハハハ」

フェイトは後ろを振り返る・・・

かなり遠い場所だが確かにいる・・・

グ「亜はははハハハハハはははははあっははあっはああは  
ははあははははは！！！」

3 対漆黒の鎌を背中から生やすグリードの姿・・・

フ「・・・・・・・・狂ってるよ・・・・・・・・グリードさん・・・」

フェイトは転送し離れる・・・・・・・・この処理された世界から・・・・・・・・

#### 4話 狂いしチカラと狂いし処理（後書き）

---

どうです？このバトル……

おかしい所があったらアドバイスよろしくッス!!

では、次の投稿もがんばるッス!!

## 5話 大きな決意（前書き）

今日は頭痛が酷いッス・・・

もしかしたら、変なところがあるかもっ

それでも頑張るっス!!

本編どうぞっス!!



## 5話 大きな決意

S a i d    なのは

転入してきてからレイン君は変わらず・・・

ア「あんた・・・お弁当食べるから一緒に来なさいって行ってるで  
しょ!!」

レ「拒否する、麻痺薬が入ってるかもしれないからね・・・特に君  
のは。」

ア「入ってるわけないでしょうが!!」

レ「・・・・・・・・・・・・・・・・フツ・・・」

ア「むきいいいいいい!!」

な「あ、あははは・・・」

こんな感じでいつも喧嘩するの・・・

そしていつも道理、すずかちゃんと見守る・・・

ア「それに、最初の挨拶は何なのよ!!」

レ「・・・・・・・・事実を述べたまで・・・」

ア「この!!」

アリサちゃんがレイン君に手を伸ばす・・・

その時レイン君の目が・・・恐怖に染まる・・・

レ「・・・嫌だ!!」

バチン!!

レイン君がアリサちゃんの手を叩き落とす・・・

ア「イツ!!・・・な、何すんのよ!!」

な「ア、アリサちゃん!!」

ア「!?!?・・・」「ごめ」「ごめん・・・」「・・・え?」

レ「少しだけ・・・一人にして。」

すつと離れてどこかに行くレイン君

な・す「「アリサちゃん・・・」」

ア「・・・ここまで酷いの?女性恐怖症は・・・」

な「・・・うん・・・」

す「凄い拒絶の仕方だったね・・・」

それにしても・・・

な・す「アリサちゃん……」

……。

ア「わ、わかってるわよ!!謝って来るわよ……」

な「私も一緒に行くよ。」

す「私も行くよ。」

青春っすね

---

S a i d   レイン

あの時……何故手を叩いたんだろう……

レ「……そうか……あの時か」

少しだけ思い出す……やつ等の事を……

~~~~~  
~~~~~

僕はただ……いつも道理に生きていただけだった……

いつも道理一人で起きて・・・一人で食事して・・・一人で寝て・・・  
大嫌いな人間に会わない、いつも道理の毎日を満喫していた・・・

だけど・・・その日常は簡単に終わりを告げた・・・

いつものように、着替えて外に出かける・・・

目の前に広がったのは・・・静かに滅びていく町

町は・・・空を飛ぶヤツの翼・・・3対の漆黒の鎌で切り倒されていく・・・

逃げ惑う人は・・・竜のような漆黒の翼を持つヤツに刈り取られていく・・・まるで雑草を切るかのように・・・

山などの自然は・・・3対の漆黒の翼を持つヤツに抉られていく・・・

僕はただそれを見ていることしかできなかった・・・

しばらく立つと．．．ふと．．．全ての音が消えた．．

そして、ヤツ等が僕の前に舞い降りる．．．グリードに．．

グ「この世界を後回しにしたけど．．」

？「．．．これで、全部．．」

？「．．．処理．．．完了や．．」

．．．．．。

レ「．．．グリード．．ペイン．．エンド．．」

グ「私は．．なのは、なの．．でも君がそつ呼ぶなら．．．  
私は強欲グリードなんだろうね。」

ペ「そつか．．．私はフェイトじゃなくて．．．絶望ペインなんだね．  
．．」

エ「うちの名前．．はやて、何て言う名前やめて．．君がくれ

た終焉<sup>エンド</sup>って名前に変えるで……いつか……」

彼女達は血で染まった顔で微笑む……

レ「ど、どうしてこんなこと……!」

グ・ペ・エ「……?……君が願ったから……」

彼女達は僕を見る……

レ「……へ？」

グ・ペ・エ「……君が人間が嫌いだから……全ての人間を処理したんだよ（やで）?」

レ「そんな……そんなのって……」

グ「もう誰もいないよ……」

ペ「全次元世界の人間を……」



レ「・・・・・・何？」

ア「さ、さっきは悪かったわね・・・・」

・・・・・・ああ・・・・

レ「何で・・・・バングスが謝る・・・・悪いのは僕だろう？」

意味がわからない・・・・

ア「アンタに嫌なことをしちゃったから・・・・」

レ「そう・・・・こっちも叩いちゃってごめんね？」

そう言っアアリサの手を擦る

ア「ア、アンタ何してるのよ／＼／＼／＼／」

レ「何？駄目なの？」

な・す「「何か・・・・私達空気になってるの（るよ）・・・・」

レ「なのはもすずかもごめんね、迷惑掛けちゃって・・・・」

笑いかけながら話すレイン・・・・

な「別に全然大丈夫なの（な、何か胸がキュンキュンするなの）／  
／／／／／／／／」

す「うん、そうだよ（この気持ち・・・・感じ外・・・・だよ）／／





願いでもないのに・・・」

・・・これで、もしできると言ったら・・・やつ等と同じだ・・・

ア「そんな事、出来る訳ないじゃない!!」

・・・。。。

レ「・・・どうして?」

ア「そんなの当たり前じゃない!!その全ての犠牲ってやつに・・・私の大切な人がいるからよ!!」

す「私もアリサちゃんと同じだよ・・・」

・・・なのは・・・。

レ「君はどうなんだ?なのは・・・」

な「私もきつとアリサちゃんと同じだと思うよ・・・」

・・・。。。

レ「それが、自分を救ってくれて・・・自分の最も愛する人でも?」

な「・・・え?」

レ「君が一人の時、ずっと側に居てくれた人でもか?」

な「・・・・・・・・・・。」

レ「君が家族に迷惑を掛けまいと、公園で泣いてるときに遊んでくれた人でもか？」

な「・・・・・・・・!？」

レ「君が大切な親友に秘密を言えずに苦しんでいるとき・・・助けてくれた人でもか？」

な「・・・・・・・・・・。」

レ「何とか言ったらどうなんだ!！」

な「わからないよ・・・・・・・・。」

やっぱり・・・・・・・・やつ等と同じだ・・・

レ「・・・・・・・・やっぱり、君は「でもね・・・」「・・・」

な「それでも、きっとアリサちゃんと同じだとおもっよ?」

・・・・・・・・・・ククッ

レ「あははははははは!！」

・・・・・・・・・・僕って馬鹿みたい・・・

な「な、なんなの?」

レ「ふう、ごめんね僕が馬鹿だったみたい・・・」

何でこんなに・・・いい子何だろうね・・・

な・ア・す「「「?」「」」

ねえ・・・何で君達は狂ってしまったんだろうね・・・

でも、それはきっと・・・僕の所為だったんだろうね・・・

・・・・・・よし!!

レ「僕は一旦帰るよ!」

な「な、なんで?」

一回救ったんだ・・・

レ「君達のおかげで目が覚めたよ・・・なのは・・・」

捨てたりなんかしない・・・

な「・・・?」

レ「きっと・・・きっと話すから!」

何度でも何度でも・・・

な「・・・!?!?・・・うん!!」

救ってみせるから!!

レ「じゃ、またね!!」

ダッ

走り去る僕・・・

レ「もう、迷わない」

広い空き地に入る・・・

レ「・・・居るんでしょ・・・<sup>グリード</sup>強欲・・・<sup>ペイン</sup>絶望・・・<sup>エンド</sup>終焉・・・」

今ならわかる・・・

エ「ようわかったな」

ペ「でも、ようやくだね・・・」

グ「ずっと待ってたよ・・・」

・・・そっか・・・わかってたんだね・・・

レ「ごめんね・・・責任は取るから・・・」

エ「それじゃく戻るで・・・」

元に戻すから・・・

レ「うん．．．戻ろう．．．」

グ・ペ・エ・レ「『『『処理した．．．世界へ．．．』』』」

シュン！！

壊れたニンゲンと決意した人は、元の世界へと転送する

処理された世界へと．．．

## 5話 大きな決意（後書き）

---

とりあえず、頑張ってみたんですけど・・・

何かレイン君がヘタレじゃなくなったすね・・・

感想、アドバイス募集するッス！！

それでは、次回もがんばるっす！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4096ba/>

---

魔法少女リリカルなのは 交じり合う狂気

2012年1月14日22時57分発行